



贈り続けて30年

・・・手縫い雑巾を福祉施設へ送り続けた釜石電友会女性グループが全国ボランティア活動彰を受賞・・・

在職時より取り組んだ慈善活動を、退職後も続けようと集まった釜石電友会女性会員メンバー。使用済みタオルなどを持ち寄り「手縫い雑巾」として再生し、地元の釜石社会福祉協議会などに寄贈を続け、30年にわたり活動を継続。その功績が評価され、令和7年ボランティア活動賞を受賞し、去る11月12日東京で開催された表彰式に代表の山中章子さんが出席し、栄えある本部長表彰を拝受しました。今回の受賞により岩手からの表彰は4年連続となり、東北地方本部佐藤本部長からもお祝いの声がありました。



R7. 11. 12 授賞式(東京) 片山会長から受賞する山中さん



↑ボランティア活動日に集まったメンバーの皆さん、雑巾縫う手よりお口が動いていました。「楽しいねえ～」



釜石で行われた受賞祝賀会、参加した皆さん嬉しそうでした



←昨年12月贈呈式と釜石社会福祉協議会からの感謝状

【受賞の喜びを一言】



山中さん

先輩達の顔を思い浮かべ、ご苦労様、ありがとうございますの気持ちを胸に受賞出来ました事、感謝の気持ちで一杯でした。岩手支部、地方本部等関係する皆様のご配慮に感謝申し上げます。この活動は、楽しく和やかで心癒される時間でした。現在、少会員になりましたが、健康維持の為に継続して行きたいと思っております。私自身のボランティア活動にも励みになり、頑張っていこうと思っております。ありがとうございました。



上飯坂さん

ボランティア活動を始めて三十数年、当初子供達と一緒に運動会、野外炊飯もしました。その中から、雑巾を縫って暮れに一年分を届ける事を決めました。未使用のタオルも入れ、百枚を超え福祉事業所に届けた年も有りました。これだけ長く続いたのは、女性会員と役員の方々が、一人一人の会員に声をかけ続けて来たからだと思っております。この度の受賞を心から嬉しく、推薦を感謝いたします。